

乾漆（小皿）・重箱・お盆

31番 山田 晶子

<制作意図・デザインコンセプト>

ゼミのテーマ ”残したいモノ・伝えたいモノ”

時代の流れと共に忘れ去られる危険のあるこのよき伝統を残していきたいと思っています。その伝統行事の中で、正月・元旦の食卓に家族で漆器を囲んで使えるモノと考え重箱を制作しました。そして、取り分けられるような手のひらサイズの小皿も制作しました。普通の黒漆ですが少しでも華やかなイメージという事で、6つ合わせて並べると花のようになるように作りました。お盆は小皿が花のイメージだったので葉をイメージして作りました。

<製作工程>

● 乾漆（小皿）

1. 石膏型を作る
2. 錫金貝を貼る
3. 寒冷紗を糊漆で貼り、切粉を貼り付ける（6～7回）
4. 石膏型をはずす
5. 錆び付け（2回）
6. 錆固め
7. 下塗り
8. 中塗り
9. 上塗り
10. 胴揩り
11. 仕上げ

● 重箱

1. 木地を作る
2. 木固め
3. 切粉付け
4. 錆び付け（2回）
5. 錆固め
6. 下塗り
7. 中塗り
8. 上塗り
9. 胴揩り
10. 蒔絵

● お盆

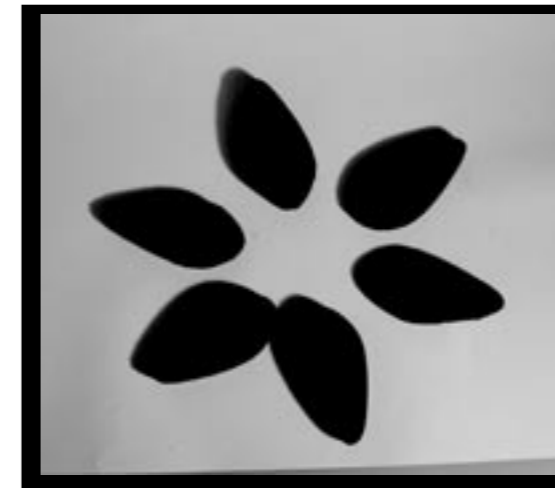
1. 木地を作る
2. 木固め
3. 切粉付け
4. 錆び付け（2回）
5. 錆固め
6. 下塗り
7. 中塗り
8. 上塗り
9. 胴揩り
10. 蒔絵



●○ 重箱 ○●



●○ お盆 ○●



●○ 漆器（小皿） ○●

<< 考察 >>

この2年間、会津ならではの漆工芸を多く学ぶ事ができ、大変良い経験ができたと思う。毎日コツコツと積み上げて、1つの作品に仕上げていくまでにはとても多くの時間と労力とを必要とされる事がわかり、売っている漆器を買うのは簡単だが自分で作るとお金では買えない思いと今までの作業工程やかぶれた時の大変さが思い出しされてくる。職業として制作されている方の事を考えると、私の技術や知識などまだまだでもっと精進するべきところがいっぱいだと思うのだが、一生懸命頑張った証としてこの作品は一生の宝物にし使い続けていきたいと思っています。

漆は、この短大を離れてしまうと触れる機会がとても少なくなってしましますが、作る側としてではなく使う側としてこれからも漆と触れあって行けたら良いと思う。